

廣瀬秀行・木之瀬 隆(著)

## 高齢者のシーティング

吉川和徳

ふつうのくらし研究所所長/特定非営利活動法人日本  
シーティング・コンサルタント協会理事長

本書の著者である廣瀬秀行氏と木之瀬隆氏とは、5年ほど前より特定非営利活動法人日本シーティング・コンサルタント協会(<http://seating-consultants.org/>)の設立準備(厳密に言えばもう少し前からであるが)の頃からご一緒させていただいている間柄である。今から思えば、理学療法士資格を取得して以来、地域でくらす人々の生活を支える現場で活動していた筆者と、長年にわたりいすの研究をされてこられた廣瀬、木之瀬両氏らとの出会いは、決して奇異なことではなく、むしろ必然といえることだったのかもしれない。

ICF の概念を引き合いに出すまでもないが、われわれの生活は本人に起因する状況と本人以外の外部環境に起因する状況との相互関係によって成立している。住み慣れた地域でのくらし、特に尊厳を保持するための自立したくらしを支えようとすればするほど、身体機能やくらしと環境因子との不適合の問題がクローズアップされ、身体機能の改善方策の検討と、環境因子を身体機能やくらしに適合させる方策を検討することは、いわば車の両輪であるということに気付いていくことになる。

日中の活動時間の大多数を占める「座位」について例えてみれば、「座ることができない」という状態を

「座る人の身体機能の問題で座位がとれない」という状態と、「身体に合ったいすがないので座位がとれない」という状態とに整理することの意義が見えてきたということが、著者らとの出会いにつながるようになったということである。

さて、最近は理学療法の領域のみならず、介護や看護などの領域でも、褥瘡の予防や治療、身体拘束禁止といった分野で Seating という言葉をよく聞くようになった。Seating というモジュラー車いすやクッションといった道具を思い浮かべたり、それらを身体に合わせるために調整している場景を思い浮かべたりする人が多いかもしれないが、座位姿勢といすは相互に影響を与え合っているものであるから、Seating とは道具そのもののことや道具を調整する行為を指すのではなく、Seating(人がいすに座った状態)=Sitting(座位姿勢)+(Wheel)Chair((車)いす)と考えるべきである。

この概念でいえば、Seating における理学療法士の専門性は Sitting にあるといえるのであるが、残念なことに理学療法士養成教育課程の中で、座位姿勢の評価手法やそれに影響を与える(車)いすについては、立位や歩行とそれに影響を与える義肢・装具の教育内容や時間数に比べると極めて貧弱で、臨床現場でも座位や車いすの問題になると、とたんに「事業者さんまかせ」になってしまっている実態は否めない。本書はそんなわれわれの弱点を補ってくれる、著者らの長年の研究成果が集約された必読の名著である。

●B5 判 164 頁

定価：2,940 円(本体 2,800 円+税 5%)

2006 年 三輪書店・刊